

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 7年 1月

其の八「阪神・淡路大震災」から学ぶ①
～あの日から30年 語り継ぐ～

京都市教育委員会事務局 体育健康教育室
京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

平成7年(1995年)1月17日(火)午前5時46分、淡路島北部を震源地とする地震が発生しました。東北地方から九州地方まで広い範囲で揺れを観測し、国内で史上初めてとなる「震度7」を観測しました。死者・行方不明者は6400人を超え、全半壊など被害を受けた住宅は約63万棟にのぼります。



震源の深さ16km で、地震の規模を示すマグニチュードは7.3でした。大阪府北西部から兵庫県の淡路島にかけて位置する活断層の一部がずれ動いたことで発生した大地震は、近畿地方を中心に広い範囲で揺れを観測しました。

地震後の気象庁は現地調査で、当初、震度6とされた地域のうち、淡路島のほか、神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市のそれぞれ一部地域で震度7の揺れに相当することが判明したと発表しました。



「阪神・淡路大震災での主な被害」

※ 関連:安全ノートP.22～30

死者6434人、住宅被害63万棟

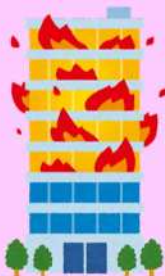
都市部で起きた直下型地震は甚大な被害をもたらした。約63万棟の住宅が被害を受け、6434人が犠牲になった。亡くなった人のほとんどが家屋の倒壊や家具などの転倒によるものだった。また、時間がたってから疲労やストレスで亡くなる人も多くいた。

死 者	兵庫県:6402人(うち神戸市4564人) 大阪府31人 京都府1人
負傷者	4万3792人
住宅被害	63万9686棟 ※揺れによる被害 全 壊:10万4906棟 半 壊:14万4274棟 一部損壊:39万 506棟



火事の被害も・・・(火災被害7574棟)

住宅が密集する神戸市長田区では大規模な火災が起きた。市内各地で火災が同時に発生する中で、地震によって水道管が被害を受けたことなどから放水用の水の確保が困難となり、延焼が拡大する一因になった。道路や鉄道といった交通網は断絶され、ガスや電気、電話といったライフラインも被害を受けた。



相次ぐ孤独死・・・

地震直後から各地で建設が始まった仮設住宅。4万8300戸が建設された。ピーク時の平成7年11月には4万6617戸の入居があった。平成12年1月14日ですべて退去し、同年3月末までに解体撤去が完了した。自力で住宅を確保するのが難しい人のため、災害復興住宅と呼ばれる公営住宅が建てられた。こうした中、誰にもみとられずに死亡した、いわゆる「孤独死」が相次いだ。



※ 参考:NHK「阪神・淡路大震災の概要」



「年表でたどる阪神・淡路大震災」



※ 関連:安全ノート P.22～30

「発災から復興までのあしあと」(震災発生から10年の軌跡)

年	主なできごと等
1995年 (前半)	1/17 阪神・淡路大震災発生 2/8 県立全日制高130校で授業再開 4/11 大阪ガス約70万戸の復旧宣言 6/12 阪急神戸線が全線復旧 1/23 避難者数31万6678人でピーク 4/1 JR神戸線が全線開通 4/17 水道の復旧完了 6/18 山陽電鉄が全線復旧
1995年 (後半)	8/11 仮設住宅4万8300戸完成 9/19 プロ野球 オリックスがリーグ初優勝 12/15 初の 神戸ルミナリエ <div>  <p>神戸のまちと・・・ 市民の夢と希望を象徴する行事</p> </div> <div> <p>「がんばろう KOBE」を 合言葉に被災者を勇気付けた</p> </div>
1996年	8/10 被災地内の交通規制をすべて解除 9/30 阪神高速道路神戸線が全線開通 10/24 プロ野球 オリックスが日本一に <div> <p>仰木監督率いるオリックスが「がんばろう KOBE」を合言葉に日本一を達成!!! イチローは3年連続の首位打者に輝く大活躍!!!</p>   </div> 11/19 サッカー ヴィッセル神戸がJリーグ昇格
1997年	3/2 大丸神戸店、全館で営業再開 12/15 復興住宅の4次募集で、なお仮設の7000世帯落選 
1998年	4/2 淡路に震災記念公園オープン 4/5 明石海峡大橋が開通
1999年	2/15 神戸の観光客数が震災前に戻る 5/11 兵庫県内の全復興公営住宅が完成
2000年	1/12 「慰霊と復興のモニュメント」完成 震災を後世に語り継ごうと、神戸市が三宮の東遊園地で建設を進めてきた「慰霊と復興のモニュメント」が完成。亡くなった神戸市民などの氏名を刻んだ地下室などが設けられた。 1/14 被災地の仮設入居者「0(ゼロ)」に
2001年	2/5 「世界防災会議2001」を淡路で開催 国際的な防災の連携を考える「世界防災会議2001」が2月5日、兵庫県津名郡東浦町(現・淡路市)の県立淡路夢舞台国際会議場で開幕。国連やOECD(経済協力開発機構)、世界銀行などが一堂に会し、協力体制の構築を狙った初の試み
2002年	4/27 人と防災未来センターが開館 12/20 震災死者数、1人増え 6433人 に
2003年	8/28 震災を検証する兵庫県「震災10年委員会」発足 10/3 神戸・三宮に「神戸マルイ」オープン
2004年	11/1 神戸市の人口が阪神・淡路大震災前を上回る
2005年	1/17 阪神・淡路大震災から10年 無念 尽きぬ「なぜ」 あの日から10年 亡き人々の10年分の涙が、空から落ちてきた。17日午前5時46分。祈りの静寂が満ちる。雨音が響く。6433人の命を奪った阪神・淡路大震災から、10年の時が巡る。 1人の部屋でじっと目を閉じた人がいた。 慰霊碑に刻まれた家族の名に初めて触れた人がいた。焼けた街で。地滑りが襲った場所。ろうそくの灯が揺れる公園で。「区切りをつけたい。でもつけられない」。言葉が嗚咽(おえつ)に変わる。夜が明けて虹がかかった。「忘れないで」。空の向こうから声が届いた。(神戸新聞 2005年 1月17日紙面より引用) 12/22 阪神・淡路大震災の死者数 6434人 に <div>  </div>

※ 参考:神戸新聞 NEXT 「年表でたどる 阪神・淡路大震災」

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 7年 1月

其の九「阪神・淡路大震災」から学ぶ②

～あの日から30年 語り継ぐ～

京都市教育委員会事務局 体育健康教育室


京都市立中学校教育研究会 安全教育部会



「年表でたどる阪神・淡路大震災」

※ 関連:安全ノートP.22～30

「発災から復興までのあしあと」(震災発生から11年目から19年目の軌跡)

年	主なできごと等																	
2006年	<div>5/19 阪神・淡路大震災発生から11年で被害全容確定</div> <div>兵庫県は19日、阪神・淡路大震災による住宅の一部損壊や公共施設の最終的な被害個所数などを発表した。再調査で一部損壊は、神戸市の12万6千197棟が初めて計上されるなど、被災地全域の2府1県で、これまでの約1.5倍にあたる39万506棟となった。震災から11年を過ぎてようやく被害状況がすべて確定した。 (神戸新聞 2006年 5月20日紙面より引用)</div> <div><div>阪神・淡路大震災で 確定した主な被害状況</div><table><tr><td></td><td>確 定</td><td>増加数</td></tr><tr><td>一部損壊 (棟)</td><td>390,506</td><td>126,804</td></tr><tr><td>火災件数</td><td>293</td><td>8</td></tr><tr><td>焼損棟数</td><td>7,574</td><td>91</td></tr><tr><td>焼損床面積 (㎡)</td><td>835,858</td><td>1,195</td></tr></table><div>(2005年12月との比較)</div></div>				確 定	増加数	一部損壊 (棟)	390,506	126,804	火災件数	293	8	焼損棟数	7,574	91	焼損床面積 (㎡)	835,858	1,195
	確 定	増加数																
一部損壊 (棟)	390,506	126,804																
火災件数	293	8																
焼損棟数	7,574	91																
焼損床面積 (㎡)	835,858	1,195																
2007年	11/9 改正被災者生活再建支援法が成立																	
2008年	1/13 災害からの復興を多角的に研究する「日本災害復興学会」が発足																	
2009年	<div>9/29 「鉄人28号」のモニュメント完成</div> <div>阪神・淡路大震災の復興のシンボルとして組み立てられた「鉄人28号」の原寸大モニュメントが神戸市長田区の若松公園に完成。地元商店主らが「震災復興のシンボルに」と計画。10月4日には完成式典が開かれた。 12月 「震災障害者」を神戸市が初集計 震災でけがをし、後遺症が出た障害者が市内に 183 人いると把握、10 年度に追跡調査をすることが分かった。</div> <div><div>※ イメージ</div></div>																	
2010年	1/17 「神戸震災復興記念公園」が開園																	
2011年	<div>3/11 東日本大震災発生</div> <div>11/20 「第1回神戸マラソン」開催</div> <div>「感謝と友情」を掲げた「第1回神戸マラソン」(神戸新聞社共催)が11月20日、神戸市で開かれた。全国から2万2958人が出場し、さわやかな秋晴れの下、阪神・淡路大震災から16年たった神戸のまちを駆け抜けた。</div>																	
2012年	<div>8/29 南海トラフ地震の被害想定を発表</div> <div>内閣府は8月29日、「南海トラフ」沿いで巨大地震が起きた場合、関東以西の30都府県で最大32万3千人が死亡するとの被害想定を発表。兵庫県内では、全ての堤防と水門が被災して機能しない最悪のケースで、阪神・淡路大震災の死者数を上回る約7400人となる。</div>																	
2013年	<div>4/13 淡路島地震発生</div> <div>4月13日午前5時33分ごろ、淡路市で震度6弱を記録するなど広範囲で強い地震が発生。地震の規模はマグニチュード(M)6.3。兵庫県内のけが人は26人、建物被害は島内3市と神戸市など9市1町で1万棟を超えた。</div>																	
2014年	<div>4/17 震災20年事業がスタート</div> <div>兵庫県は17日、阪神・淡路大震災20年事業のスタートとなる「ひょうご安全の日推進県民会議」の臨時総会を神戸市内で開いた。 事業テーマ 「1・17は忘れない - 伝える・備える・活かす」</div>																	



※ イメージ



「年表でたどる阪神・淡路大震災」



※ 関連:安全ノート P.22～30

「発災から復興までのあしあと」(震災発生から20年目以降の軌跡)

年	主なできごと等
2015年	阪神・淡路大震災から20年 1・17のつどい、参加過去最多 昨年の3倍 1万4千人 6434人が亡くなり、3人が行方不明になった阪神・淡路大震災は17日、発生から丸20年を迎えた。発生時刻の午前5時46分に合わせて各地で追悼行事が営まれ、神戸・三宮の東遊園地で行われた「1・17のつどい」(神戸市など主催)には、昨年の約3倍で過去最多の 約1万4千人 が参加し、黙とうをささげた。 
2016年	1/6 神戸・東遊園地での追悼行事を支えてきたボランティア団体「神戸・市民交流会」が、3月の解散を前に最後の作業 多言語コミュニティ放送局「FMわいわい」(神戸市長田区)も3月末でFM放送を終え、インターネット放送への移行を決定。被災者生活再建支援法の制定を求めた市民運動の拠点となった芦屋市の「山村サロン」も8月に閉館するなど、市民の活動が曲がり角に。
2017年	3/15 公益財団法人「阪神・淡路大震災復興基金」が2020年度で全ての事業を終える見通しであることが判明
2018年	6/18 大阪で震度6弱 尼崎、西宮、伊丹、川西で震度5弱
2019年	1/17 東京で初の「1・17」のつどい 阪神・淡路大震災への思いを被災地から離れた東京でも共有しようと17日、東京都千代田区の日比谷公園で追悼行事「1・17のつどい」が開かれた。会場では、参加者が約100本のろうそくを「1・17」の形に並べ、東遊園地の「1・17希望の灯り」と岩手県陸前高田市の「3・11希望の灯り」から分灯された火をともした。
2020年	1/17 阪神・淡路大震災から25年 あれから四半世紀、消えない無念 遺族の声 阪神・淡路大震災は17日、発生から25年となり、各地で追悼行事が営まれた。神戸・三宮の東遊園地では約5千本の竹灯籠に、亡き人の面影が重なった。「僕もお母さんが亡くなった年と同じ47歳になったよ」。四半世紀の時が流れても、亡き人の無念は消えず、亡き人への追慕も変わらない。この日一日、被災地は祈りに包まれる。 
2021年	11/27 「人と防災未来センター」入館者数が900万を突破
2022年	6/3 阪神・淡路大震災発生から「1万日」
2023年	4/3 災害の記録どう残し、伝える? 阪神・淡路や東北の震災を知る研究者ら、意見交換 公表する葛藤も吐露
2024年	1/17 阪神・淡路大震災発生から29年 小中学校など避難訓練や黙とう 増加「阪神・淡路」伝承する意識向上 学校・幼稚園で黙とうや訓練を行うのは計910校園で、前年比37校園増。小中学校などでの黙とうや避難訓練は増え、調査した「市民による追悼行事を考える会」は「次代へ伝承する意識が教育現場で高まっている」とした。
2025年	阪神・淡路大震災から30年 伝承 ～次の世代へ語り継ぐ～

※ 参考:神戸新聞 NEXT 「年表でたどる 阪神・淡路大震災」

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 7年 1月

其の十「阪神・淡路大震災」から学ぶ③

～あの日から30年 語り継ぐ～

京都市教育委員会事務局 体育健康教育室

京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

阪神・淡路大震災から30年

あの日から30年。30年といえば、長い年月に感じてしまうかもしれません。時間が経てば経つほど「風化」は進んでいきます。「風化」が進むと震災当時の記憶やその震災の経験から得た教訓等が忘れ去られ、再び同じような災害が起こった時に、当時と同等、あるいは当時よりも大きな被害をもたらすことにつながってしまいます。



阪神・淡路大震災等の過去の震災の記憶を未来に伝承し、防災・減災の取組をすすめ、この後、大きな災害が発生したとしても被害を最小限に食い止めるようにすることが大切です。そのために、避難訓練はとても大切な取組です。自分や周りの人の「命を守る」ために真剣に取り組みましょう。また、既に避難訓練を終えた学校では、今後の災害の備えとして参考にしてください。



「緊急地震速報が発表されたら・・・」

※ 関連:安全ノート P.22～30

緊急地震速報が発表されたら

あわてず、まず身の安全を！

緊急地震速報を見聞きしたとき、揺れを感じたときは危険な場所から離れるなど、状況に応じて身の安全の確保を

屋内では

- ・頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- ・あわてて外に飛び出さない
- ・無理に火を消そうとしない



鉄道・バスでは

- ・つり革、手すりにしっかりつかまる



エレベーターでは

- ・最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



屋外では

- ・ブロック塀の倒壊に注意
- ・看板や割れたガラスの落下に注意



※ 参考:国土交通省 気象庁 HP「緊急地震速報を見聞きしたときは」



避難訓練のポイント「お・は・し・も」

※ 関連:安全ノート P.22～30

「お・は・し・も」は自分の命も友達の命も守るための合言葉

おさない



- ・前や周囲の人を
押しません
- ・押すと人が倒れて危険です
- ・思わぬケガにつながります

はしらない



並んで、前の人と間を空けずに
歩いて
避難します



しゃべらない



おしゃべりを
すると先生の指示が聞こえなくなってしまう

もどらない



忘れたものがあっても教室には**戻りません**
命よりも大事な物はありません



「30年限界説」

災害の記憶は、発生から30年たつと継承が難しくなる。

専門家の間では、時にそう語られているそうです。阪神・淡路はまさにその時期を迎えつつあります。この先、継承が難しくなることが懸念されています。

継承が途絶えると、待っているのは「風化」です。

「風化」が進み、過去の震災で得た教訓が忘れ去られ、また次の震災が発生した時に、この震災での被害と同等、あるいはそれよりも大きな被害を受けることになるかもしれません。

「風化」を止めるためには、「語り継ぐ・伝承」しかありません。

しかし、30年という時間は、当然ではありますが、この震災を経験していない人が増えていくことになりました。このことが、「語り継ぐ・伝承」を難しくさせ、「30年限界説」と言われる理由です。

では、どうすれば・・・「30年限界説」を打破できるのか？

実際に被災した人

この震災を経験していない人

この震災のことに興味を持った人

神戸で暮らす人が好きな人

この震災を経験した人

この震災以降に生まれた人

神戸の街が好きな人

神戸に行ったことがある人

誰もが、阪神淡路大震災のことを知って、「語り継ぐ」ことです。

毎日のようにテレビ等の報道で、阪神淡路大震災のことが取り上げられています。しかし、それらの30年の復興の歩みは、テレビ等の報道だけでは伝えきれていないこともたくさんあるのだと思います。被災した人だけに限らず、震災を経験したことのない人も、誰もが阪神淡路大震災のことを見聞きしたことを周りの人に語り継ぐことが重要です。

何があったか。何ができなかったか。ともに語ろう。

ともに知ろう。命を守るために。

「過去」は我らの糧となり、「未来」は我らの夢となる